

受賞者からのコメント

対象：保健医療学部看護学科 2年

保健医療学部看護学第一講座 講師 首藤 英里香

「授業を行うにあたって工夫していること」

私は主に看護技術に関わる講義および演習を担当しております。

看護技術における日常生活援助は、一見、普段の生活で行っている動作として簡単に捉えがちであるため、看護者として実践することの意味とその役割を常に伝えていくようにしています。

また、看護技術の実施方法に関する根拠やその意味を学生が理解できるよう具体例を示しながら説明を行ったり、今学んでいることがどのような実践に繋がっていくのかを学生自身が理解できるように伝えるようにしています。学生が体験したことのない想像が困難である内容に関しては、実際の臨床場面での事例等を活用しイメージ化できるような教材を使用することによって理解を促しています。

技術の習得を促すためには、原則や根拠の理解と反復練習が必要になると考えます。具体的な行動を通してそれらを伝えられるよう講義の内容やデモンストレーションの方法を工夫したり、学生が継続的に学習できる環境を提供できるよう今後も努めていきたいと思っています。

「学生への要望・アドバイス等」

看護は技術を用いて対象者への援助を実践することから、学生のうちに自分の技術を磨いておく必要があります。看護技術は演習で一度体験したからといってすぐに身につくものではありません。技術を自分のものにするためには、学習したことを繰り返し練習することが重要です。是非、自分の時間を使って自己演習を行ってください。指導が必要な場合には声を掛けてください。

また、学生の皆さんには様々なことに興味を持ち、仲間と沢山ディスカッションを行って欲しいと思います。看護は人間の健康生活に関わる職業であり、臨床現場は多くの人と出会い、ふれ合う場です。学生時代に様々な場面や多くの人々に出会う中で、相手を理解しようとする気持ち、思いやる心、そして理解力や思考力を育てていってください。

私も皆さんの看護に対する学習意欲や好奇心を刺激することができる授業を行えるよう、今後も努力していきたいと思っています。